



障がい者歯科医療の現状と今後の対応は

9月24日の議会本会議で「障がい者歯科」「中学校部活動の地域展開」「より良い投票環境の整備」について取り上げました。議場での質疑の様子は、沼津市議会ウェブサイト(右記QRコード)で視聴可能です。



障がい者歯科は、全身麻酔や行動調整などを行いながら治療を行う、一般の歯科とは異なる専門領域です。静岡県では「かかりつけ歯科医」と「中核医療機関」で医療提供体制を構成しています。沼津市が属する駿東田方圏域(※1)には中核医療機関が4つあり「口を開けられない・暴れてしまう・椅子に座れない」といった状況の患者を担当していますが、かかりつけ医の紹介から中核医療機関での初診まで数か月、さらに治療や手術まで追加で数か月を要するケースがあります。



かかりつけ 歯科医

軽度の方の
診療や予防指導

紹介

逆紹介(※2)

中核医療機関

行動調整・鎮静・
全身麻酔などの
専門対応



中核医療機関の状況

医療機関名	診療日	初診までの 待機期間
沼津市立病院	毎月木曜(不定期) 2回	3か月
伊豆医療 福祉センター	毎週木曜、 月1回火曜	2か月
中伊豆リハビリ テーション センター	月～金 (不定休あり)	1～2週間
フジ虎ノ門 整形外科病院	水曜、木曜(月に数日) 第1土曜の午前	2～3週間

議会で求めた今後の対応

- ・初診待機日数の目標設定
- ・トリアージ(緊急の目安)指針の策定・公開
- ・医師確保と診療枠拡大
- ・かかりつけ医の実働確認と逆紹介ルール整備
- ・市民への周知強化(受診練習・緊急時対応)

患者や家族に混乱があっても治療まで数か月の待機があり、痛み止めを服用し続けて凌ぐ状況は大変深刻です。圏域全体で、中核医療機関・かかりつけ歯科医・家庭が連携・対応する必要があります。誰もが安心して歯科医療を受けられる体制づくりに引き続き取り組みます。

※1 駿東田方圏域 … 沼津市・三島市・御殿場市・裾野市・伊豆市・伊豆の国市・函南町・清水町・長泉町・小山町で構成。圏域の中核医療機関・歯科医師会・市町の担当部門が集まる圏域歯科会議が年1回行われています。

※2 逆紹介 … 中核医療機関での治療が終わり、症状が安定した患者を地域の診療所やかかりつけ医に戻すこと。



部活動の地域展開「ヌマカツ」～制度設計と支援体制の課題を問う

国の方針を受けての「中学校部活動の地域展開」が全国で進んでいます。沼津市でも「ヌマカツ」として地域クラブ活動が本格化。本テーマは、2016年より継続して取り組んでおり、これまでも部活動の教育的意義・教員の負担軽減・生徒の選択肢の保障などを提言してきました。今回は、地域展開の現状と課題を踏まえた、制度設計・支援体制・財源確保について具体的な対応を求めました。

今回の質疑のポイント

教育的意義の継承	人格形成の場としての部活動の価値を、地域クラブにおいても どう担保するか。
新たな負担への対応	月謝・交通費・用具代など、保護者負担の実態と支援策の検討状況。
生徒の参加状況	費用や送迎を理由に参加を断念する事例の有無と対応。
指導者の処遇	教員の兼職・兼業の扱い、報酬の設定、学校での評価との関係。
個人情報への取扱い	学校とクラブ間の情報共有の課題と安全管理。
トラブル対応と責任の所在	クラブ側の責任体制と市の支援機能。
困窮世帯への支援	企業版ふるさと納税の活用や地域団体からの支援の可能性。

困窮世帯への支援は、国の方針に基づく沼津市独自の制度設計と財源確保が急務です。

企業版ふるさと納税の活用や商工会議所・地域団体との連携による支援の仕組みづくりを進め、すべての子どもが安心して活動に参加できる環境を整える必要があります。

引き続き、教育的価値をしっかりと継承し、また生徒たちの公平な参加機会を保障できるよう、取り組みます。



商業施設への投票所設置、ようやく実現へ前進

市民の利便性向上と投票率の改善を目指すための提言を行なってきましたが、ようやく本年、商業施設への聞き取りやネットワーク環境の検討が進み、具体的な協議が始まりました。投票しやすい環境の実現にご期待ください。



ぬまづ
昔ばなし

障がい者歯科と部活動の地域展開のテーマは、課題解決に向けた継続的な取り組みが必要です。商業施設への投票所設置は、早期実現に向けた後押しを続けます。日常の中で投票できる環境の整備は民主主義の基盤強化につながります。ぬまづ昔ばなし 第12巻 幽霊舟(第三地区)は12月発刊予定です。

